

平成29年度第2回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成29年10月30日（月）
- 2 開催場所 市役所C棟2階201災害対策室
- 3 会議時間 午後1時～午後3時
- 4 出席委員 伊藤宣良、禅野葵、永田徳一（高島達 代理）、寺下利宏、堂端誠作、松原勝久、富樫克哉（村江省三 代理）、屋敷夕貴、猶明孝信、米田良憲、糸秋男、田中英雄、釣賀節子、山口新輔、小伏脇健郎、圓山留美 計16名
- 5 欠席委員 森本太郎、岩崎章夫、濱谷英俊、本川和枝
- 6 市出席者 林正之（市長）、前辻秋男（副市長）、山本品（教育長）、藤澤一興（市長政策・都市経営戦略部長）、高橋正明（総務部長）、山口優（まちづくり推進部長）、草山利彦（市民部長）、表良広（建設農林水産部長）、荻野直樹（防災・危機管理監）、荒井市郎（教育次長）、川崎保広（消防長）、出戸勝教（企画政策課長）、川淵宏朗（総務課長）、京田武彦（財務課長）ほか
- 7 傍聴者 0名
- 8 案件 (1) 配布資料の説明 (2) 質疑応答、意見交換
＜協議資料＞
 - 資料1 氷見市中長期財政見通し
 - 資料2 類似の同規模団体との主要財政指標等比較
 - 資料3 類似の同規模団体との職員数比較
 - 資料4 今後の定員管理の考え方（案）
 - 資料5 現行プランの検証
 - 資料6 新たな行政改革プランの基本計画（案）の概要
- 9 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

会長

ただいまから、平成 29 年度第 2 回氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。

委員各位には、ご多用のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

最近、週末になりますと季節はずれの台風が上陸しており、皆さんの大変だったのではないかと思います。

さて、本日は、前回会議での委員各位のご意見を踏まえ、中長期財政見通し、今後の定員管理の考え方、そして新プランの基本計画の概要が示されます。

議論を深めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の会議は、2 時間程度を予定しております。

最初に、市長からご挨拶をいただきます。

はじめに、市長より挨拶を申し上げます。

林市長

平成 29 年度第 2 回行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、本日は、何かとご多用のところ、行政改革推進市民懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今ほど会長さんからもお話しがありましたとおり、週末に季節はずれの台風が日本に上陸しており、市内でもいくつか被害が発生しております。

特に先週の 21 号台風により県道田鶴浜線の磯辺地内で道路がえぐられ、通行止めとなっています。

角間、胡桃、小滝の 3 集落が通行できない状態にあり、現場を見てきましたが、角間の方から市道を通る迂回路でしばらくご不便をおかけするかもしれませんが、県で早く復旧していただけるよう要望していきたいと思っております。

さて、この市民懇話会につきましては、8 月に第 1 回の会議を開催させていただきまして、「新たな行政改革プランの基本的な考え方について」や、「現行プランの進捗状況について」、ご説明をして、ご議論をいただいたところであります。

その際、委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただいたところであり、本日は、「中長期財政見通しについて」、「職員数について」、「基本計画について」、その意見を反映し、市としての考えを説明させていただきます。

時に今後は大きな事業を予定しており、新文化施設の整備、大浦運動公園や老朽化した保育の改修など、いろいろなものがあります。

そのことも見通しを出した上でプランを作りたいと思っています。

本市の行財政環境は依然として厳しい状況にありますが、委員の皆様をはじめ、市民のご理解とご協力を得て新たな行政改革プランを策定することで、市民の皆様には新たな活力をもたらすことができると考えております。皆様には、忌憚のないご意見を頂戴いたしますとともに、お力添えを賜りますよう申し上げます次第です。

終わりに、本日ご出席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申しあげ、私の挨拶といたします。

どうか、本日はよろしくお願い申し上げます。

会長

ありがとうございました。

市長におかれましては、所要のため、これにて退席されます。

(市長退席)

次に委員をご紹介させていただきます。

高嶋社会福祉協議会会長の代理として永田様、村江小中学校 PTA 連合会会長の代理として冨樫様にご出席いただいております。

なお、森本委員、岩崎委員、浜谷委員、本川委員につきましてもは欠席のご連絡をいただいております。

協議案件に入ります前に、前回の会議の振り返りを行いたいと思っております。

事務局から説明をお願いします。

総務課長

(「前回議事録」の説明)

会長

それでは、協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思っておりますのでご了承よろしく申し上げます。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思っております。

本日の協議案件は、中長期財政見通しについて、職員数について、基本計画についての3件です。

はじめに、提出資料を一括して、事務局から説明をお願いします。

財務課長 (「氷見市中長期財政見通し」の説明)
総務課長 (「類似の同規模団体との主要財政指標等比較」の説明)
(「類似の同規模団体との職員数比較」の説明)
(「今後の定員管理の考え方(案)」の説明)
総務課課長補佐 (「現行プランの検証」の説明)
(天坂) (「新たな行政改革プランの基本計画(案)の概要」の説明)

会長 それでは、ただいまの説明に対する質疑及び意見交換に入ります。
ご発言をお願いします。

委員 中長期財政見通しが示されたが、人口ビジョンにもとづき財政的にまずいぞという時期はいつなのか。
いつかのタイミングで何かの判断をしなければいけないので。

総務部長 人口ビジョンは2060年に各年代が均等な寸胴型の人口の年齢構成を目指している。
財政見通しは、このビジョンと、現状の場合のシナリオの両方が必要である。
今回はビジョンに基づき、今後10年間の見通しを示し、基金などを取り崩すことでその推移を示した。
財政面からの判断は、その都度、その都度になると考えている。
その際、常に5年、10年の見通しのもと行っていく。

委員 どこかで早めに判断しなくてはならないのでは、10年以内にその時期があるのではと思い質問させていただいた。

総務部長 財政調整基金をはじめとする基金が貯まっており、その活用を行った見通しであるが、行政改革前のものであり、歳入と歳出の差額である収支不足をどのように解消していくのかを、委員各位と検討を行い、プランに反映させていく。

委員 5年位(経過後)で検討していくことも必要と思う。

委員 平成29年度から過疎債の適用となったが氷見市の発行可能額はいくらか。

過疎債による効果額はいくらか。

中長期財政見通しは、総合戦略の人口ビジョンに基づいているが、実際の人口の推移はどうか。特に労働力人口は市の歳入への影響が大きく、通常は歳入を堅く見積もって財政見通しを出すと思うが。

職員を減らせないことは理解できるが、これまでも人件費を減らすことで財源不足を解消し、行政改革を行ってきた。公共投資を行っていく以上、削減できるところは人件費しかないのではないか。例えば、人口が減れば、サービスの対象者が減り、これまで一人で4つの業務を行っていたのを5つできるようになったりするのではないか。

総務部長

過疎債の発行額はピーク時で単年度当たり25億円程度を見込んでいる。

人口ビジョンに基づいているため、税収は甘目の見積りと思っている。

総合計画後期基本計画を着実に推進していく必要がある。これまでやってこなかった部分もあり、人口減少に歯止めを掛けるためにも必要である。

行政改革には、人件費（527名）や公共施設の更新経費の圧縮も視野に入っている。

委員

平成30年度から39年度まで期間で67億4千3百万円（正しくは69億4千3百万円：財調32億1千4百万円、減債12億円、特目25億2千9百万円）の基金の取崩しがされているが、29年度末及び39年末のそれぞれの基金残高はいくらか。

総務部長

歳入歳出の差引額である収支差引額がマイナスであるのに、決算収支合計がマイナスにならないのは、基金や繰越金によります。

29年度末残高は財調28億5千7百万円、減債14億8百万円、特目15億9千9百万円、39年度末残高は財調4億6百万円、減債2億8百万円、特目8億7千万円です。

財政調整基金については、標準財政規模の1割程度が望ましいとされており、本市の場合、11億から12億円程度が目安と考えております。

今回の見通しは、一定の条件で試算を行った場合のものであり、この4年間の収支をどうしていくかの議論をしていただくものです。

委員

先程も発言があったが、企業会計ではないのに10年間の見通しを立てるのは大変であったかと思う。

主な大型プロジェクトを実施しても財政指標が極端に悪くならないと

いうことなのか、将来負担比率の111%（39年度）は飛び抜けて悪いのか、つまり財政的に健全なのか。

1期目にこれだけのことをやったら、2期目はやることがないのでは。市長、議会が判断することだが。

総務部長

財政指標のうち、特に、実質公債費比率、将来負担比率を重要な指標とらえており、実質公債費比率は18%以下であれば県の許可がなくても市債が発行可能であり、見通しでは10%前後で推移する。

将来負担比率は100%程度が望ましく、100%前後を維持していきたいと考えている。なお過去には150%に達したこともあった。

全てのプロジェクトを行っても基金を残すことができる見通しであるが、これは大型プロジェクトに7割補助に相当する過疎債（市負担は3割）を充当していることによる。

委員

先程も質問があった過疎債による効果額はどれくらいか。

総務部長

事業費20億円の場合、14億円とその利息分が効果にあたります。新文化施設の場合ですと、その12年間で償還することになり、一般的な借入より償還期間が短いため一時的には財政負担が多くなります。なお、病院については30年償還となります。

委員

非正規職員数については常勤換算のものか、頭数のものか。

総務部長

頭数のものです。

中長期の見通しでは会計年度任用職員制度の導入による処遇改善、年金支給開始年齢までのつなぎとしての再雇用などを見込んでいます。

委員

資料の非正規職員の説明に正規職員と同程度の勤務形態とあるが、どういうことか。

総務課課長補佐
（天坂）

各市に照会した際、正規職員と同程度ということで、例えば、半日勤務であるとか、週3日であるとか、そういった職員の数は除外しており、正規職員と同程度の勤務を行っているものを回答いただいています。

委員

そうすると、この人数以外にも幅があるということか。

総務課課長補佐

あります。本市の場合は各課において雇用するパートタイマーがおり、

(天坂)

概ね1カ月単位で雇用されます。

他市においても何百名のところ、何十名のところがあります。

氷見市は50名程度いますが、雇用期間が短く、他市との比較に適さないことから、除外してあるものです。

委員

やはり、この人数以外にも幅があるということですね。

収支見通しでは、人件費が下がっていますが、その理由は。

総務部長

職員の平均年齢が高く、毎年10人程度の高齢の職員が退職し、若い職員が入ってきます。(再雇用職員の増で正規職員も減ってきます。)

その新陳代謝が、会計年度任用職員制度による処遇改善効果を上回るためです。

委員

何か特別なことをしなくても減っていくということですね。

委員

市税などの収入を増やす方法がないかと思う。例えば、新幹線の客をまんがロードの誘客につなげるなど、交流人口を増やすなど。

寿養荘が老朽化しており、県と協力して市庁舎裏の空き地に福祉センター、健康センター等の機能を持つ施設を整備したらどうか。

総務部長

収入を増やす視点、前回は提案があったが、例えば、外国から来られるお客さんは通常の観光各と比べ7、8倍の経済効果があると言われており、観光協会にて台湾への誘致活動をされたところであり、こうしたことは税収増につながるのので、ご協力をお願いしたい。

市民部長

寿養荘は、建築後、相当程度の年数を経過している。

年間1万5千人の方に利用いただいております、利用者からは好評である。

財務当局にはこれからとなるが、来年度の予算要求にて、耐震診断の経費を要求したいと考えている。施設のあり方については公共施設マネジメント計画で方向性を出していきたい。まずは耐震診断を実施したいと考えている。

会長

ここで、新プランの基本計画について一定の整理ができたことから、新プランの名称について、どのようなイメージのものが良いと思われるか、各委員から、順番にご発言をいただきたいと思います。

具体的な名称ではなく、イメージをあげていただければと思います。

委員	行政におまかせします。
委員	<p>名称のことではないのですが、意見を述べさせていただきます。 もっとアウトソーシングできるものがあると思う。 観光マップ一つとっても、行政では県境をまたいだ広域のものは作れないが、民間では可能である。</p> <p>観光分野の予算をみると両方の予算が相当かぶっています。市の観光課の1千万円と観光協会の1千万を比べると、観光協会はもっと良いのものができると思う。</p> <p>観光協会一つとってもそうであるなら、他でもそうではないか。商工会議所へのアウトソーシングできること、その他にもアウトソーシングできることがあるのではないか。民間に任せるところは民間にさせる。そうしたところを探す。</p> <p>本当の行政改革に取り組んでいただきたい。 本当の行政改革でお願いしたい。</p>
委員	<p>現行プランの「品質」が気になる。 行政改革だけで良いのではないか。</p>
会長	<p>名称については次回までに考えてきていただければと思います。 ご議論いただきました内容も踏まえて、次回の会議では、議論いたしたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。 閉会にあたり、副市長から一言ごあいさつをいただきます。</p>
前社副市長	<p>本日は、長時間にわたり、活発にご審議を賜り、厚くお礼を申し上げます。</p> <p>ただ今のご議論により提言内容をより良い方向性にまとめていきたいと思っております。</p> <p>猶明会長をはじめ、委員各位のご尽力に、心からお礼を申し上げます。</p> <p>この後、懇話会として、時期を見て市長に提言をいただくこととなりますが、その内容をしっかりと受け止め、新たな行政改革プランの策定につなげてまいりたいと思っております。</p> <p>各位には、今後とも、ご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いい申し上げます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
会長	委員の皆様には、長時間にわたり、熱心に議論いただき、ありがとうございます

ございました。

次回は12月上旬を予定しておりますので、よろしく申し上げます。本日はこれをもって閉会いたします。お疲れさまでした。